見真

発行所
甘木朝倉 浄土真宗文書伝道部
甘木市七日町 教法寺内
TEL（甘木）2166

印刷所
合資会社 神坂印刷
朝倉郡杷木町池田
TEL（杷木）②0036

臨時号

他力本願とは

―人間を悲しみ、深く自己の罪障と宿業を
みつめたことのない人間に他力を語る資格はない―

浄土真宗の特質は「他力廻向」の一語につきるといっても過言ではない。しかるに今日ではこの他力という言葉が一般に誤解されて、なまけ者が他人の世話になっていることを他力本願といって、他力の救いは人間の生きる力と希望とをうばうものであるかのように考えられています。

真宗における他力とは、人間のちからやはたらきが全く否定されたところに仰がれる仏の大願業力であり、大慈悲心であります。故にこの他力の言葉は人間のあいだの関係、すなはち自と他において語るべきではなく、自他を共に超えた絶対の力であり、人力のまじわらない仏の大生命力を指すのであります。この力が私自身の生きていく本当の根拠であり生命力であることを示されたのであります。

水は高きより低きにながれる如く、いかり・はらだち・そねみ・ねたみ、と三毒の煩悩を燃しつゞけ乍ら迷いの人生をくりかえしつつ、苦悩の生活にあけ暮れている私たちを見そなはし、じっとしていられず働きどうしに働いて下さる如来の大願業力を他力と申すのであります。

親鸞聖人は「他力というは如来の本願力なり」と示されています。以上の如く他力とは人間の力ではなく仏の力であり、その仏の力が具体的に現われたものが本願であることに気ずくのであります。

本願力とは、すべてのものをこと〴〵く救済して、さとりをひらかしめんと誓われた仏の念力であり、仏は限りない慈悲と智慧とをもってみずからの全生命をおしみなく恵み与えようと誓われました。

この本願の力が私たちを救うために、二つの法にあらわれて出ています。名号と光明とがそれであります。南無阿弥陀仏の名号は、私たちが念じやすく、称えやすいように、仏の生命があらわれたもので、母がその子供を育てるために与える乳のようなものであります。光明は私たちを仏にむかわしめ、私のはからいの心を破る力であって、母がその子をいだきまもる慈愛の手のようなものであります。

この本願力の救いあればこそ、このおろかな諸仏にみ捨てられた私が救われる道がひらかれていくのであります。

弥陀の本願を正しく受けとり、その真実の意味を自己のものとすることは、深く自己の罪悪にめざめ、宿業におのゝき、みずからの無価値につきあたって泣きぬれたところに体験されるものであります。私はこの仏の本願力に生かされずしては生きることが出来ない。救われて生き、許されて生き、抱かれて生きるよりほかに、私の生きる道はないのであって、このやみがたい必然としての願力を信ぜしめられた信仰に生きてこそ、私たちは生死を超越して無碍の大道を歩むことが出来るのであります。

故に他力の救いは、私たちから生きる力を去勢するのではなく、人生にほろびなき生命と限りなき希望があたえられる仏のいのちそのものであります。

浄土真宗の生活信条

一、み仏の誓いを信じ　尊いみ名を称えつゝ強く明るく生きぬきます
一、み仏の光りを仰ぎ　常にわが身をかえりみて感謝のうちに励みます
一、み仏の教えにしたがい　正しい道をきゝわけてまことのみ法をひろめます
一、み仏の恵みをよろこび　互いにうやまい助けあい社会のためにつくします

倉石前農相
本願寺への陳謝文

倉石前農林大臣がさる二月六日、閣議後の記者会見で「これからの日本は親鸞の他力本願のような時代ではなく、自力本願の時代でなければならない」……と述べ、大臣としての公式の発言であることに、本願寺と親鸞聖人を冒とくするものであるとして、倉石氏は勿論、政府・内閣官房長官宛の抗議に対し本願寺に次のような陳謝文が送られてきました。

原文写

謹啓

去る二月六日の記者会見における倉石農林大臣の発言は、親鸞聖人の本願力の御教を誤り引用批判したる印象を与え、宗門の皆様方に大変御迷惑をお掛けしましたことは誠に申訳なく存じます。

その後、倉石農林大臣も十分反省し、改めて記者会見の席上、正式に前言の取消しを行い、御宗に対し陳謝の意を表明いたしました。

今後は再びかかることのないよう総理からも重々注意いたした次第であります。

何卒御宗におかれましても右事情御諒察の上、御海容のほどお願い申し上げます。

昭和四十三年二月十三日　　啓具

内閣官房長官　木村俊夫㊞

浄土真宗本願寺派 御中

原文写

謹啓

益々御清栄奉賀候

陳者　このたび二月六日記者会見後における小生の発言は親鸞聖人の本願力の御教を誤り引用批判したる印象を友宗門の皆様方に大変御迷惑をお掛け致し此段まことに遺憾に存じ候今後充分注意致し度候間何卒御海容賜り度く御願い申上候

昭和四十三年二月十三日　　啓具

倉石忠雄

浄土真宗本願寺派 御中

他力本願の趣意をめぐり
―宗教評論新聞　中外日報より転載―

質問者もアッパレ

▲質問者の大原議員の方も、広島選出というだけあって、またよかった。自分も真宗門徒であると言明し、もし親鸞聖人が在世なら、権力に屈することなく民衆の味方として、平和憲法を守るとの立場から、社会党を応援して下さるだろうと見事なことをみせていた

▲宗教論議が国会の正式の場でかわされたのは、帝国議会はじまって以来のことではなかろうか。

▲この日（二月二十六日）午後三時すぎからは、本山宗務所内のテレビの前は、どこも宗会議員で黒山の人だかりだった。

というのも、倉石発言に対して川野三暁北海道開発庁政務次官が答弁する予算委員会の実況中継があったから。

▲質問に立った大原亨社会党議員は、川野次官を指名して「本願他力」の本意を明かすことを求めた。

これに対して川野氏は、政務次官の立場を離れ西本願寺を代表してと前置きし、「他力本願は如来廻向の本願力」との趣旨を明らかにし「人間の主体性を確立するための極めて力強い生命力なのだ」とあざやかなところを見せていた。

ともに「有識者の間で、宗教用語が軽々しく誤って使われる傾向が強い」ことを示して猛省を促し、与野党席から割れるような拍手をうけていた。